

ミユキプロテックより大切なあなたへお届けします

すまいる通信

〒330-0851 埼玉県さいたま市榎引町1-849-2 有限会社ミユキ 電話 048-668-1835

2007年11月号

地震速報で問われる「その時」の行動

震度5弱で出る緊急地震速報

地震の揺れがやってくる前に発生を知らせる気象庁の「緊急地震速報」サービスが10月1日から始まりました。1995年の阪神・淡路大震災以降、精度を高めたわが国の地震観測網や大量のデータを収集・分析する技術力を活用したものです。

全国にキメ細かく設置された地震計が感知した初期微動（P波）と、強い揺れをもたらす主要動（S波）をコンピュータ分析することで、予想される地震の規模や揺れる地域をテレビやラジオを通じて伝える仕組みです。最大震度が5弱以上と算出された場合に速報が流れます。

常時つながる専用端末も登場

この速報は、はつきりとは感じにくいP波を感知した後、実際に被害をもたらすS波が到達する数秒から数十秒前に放送などを通じて広く伝

えることを使命としています。しかし、P波とS波の到来時間に差がない震源の近くは残念ながら速報ができません。ですから、実際に速報が役立つのは震源から数十km以上離れている場合とされています。

ただし、原則的に放送を通じて速報されるので、その時にテレビやラジオをつけていなければ、せっかくの情報を知ることができません。このため、インターネット回線を利用する専用端末も発売されています。

速報を聞いたらどう行動するか

速報から揺れが伝わるまでは、ほんの数秒から数十秒。この短い間にとあるかもしれません。気象庁では、こうした場面に備えた対処法をいくつか紹介しています。まさに、備えあれば憂いなし。皆さんも参考にしてみてはいかがでしょうか。

【家庭では】 頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。慌てて外に飛び出さない。

【人が大勢いる施設では】 施設の係員の指示に従う。落ち着いて行動し、あわてて出口に走り出さない。

【街中では】 ブロック塀の倒壊に注意。看板や割れたガラスの落下に注意して建物から離れる。

【エレベーターでは】 最寄りの階で停止させ、すぐに降りる。

【自動車運転中】 慌ててブレーキをかけない。ハザードランプをつけ、揺れを感じたらゆっくり停止。

